

## 京都芸大国際交流アーカイブ

2021 年度活動報告



[https://intl.kcuu.ac.jp/rca-kcuu30/mono\\_things](https://intl.kcuu.ac.jp/rca-kcuu30/mono_things)

2019年、本学の交換留学制度が開始30周年を迎えたことを機に、美術学部国際交流委員会にて、交換留学のアーカイブを進める計画が立案された。国際交流委員長（当時）の金氏徹平准教授をプロジェクトリーダーとして、英国ロイヤル・カレッジ・オブ・アート（RCA）との交換留学30周年記念アーカイブプロジェクトを発足。翌2020年度には本学特別研究助成と、京都市の「京（みやこ）グローバル大学」促進事業の補助を受け、RCAへの交換留学を経験した卒業生に対する大規模な聞き取り調査と、現在も芸術分野で活躍を続けている計六名のアーティストに、ロングインタビューを行った。その研究成果は、「Mono/Things」と題したウェブサイトで発表している。同年には、「京都市立芸術大学国際化方針2020」が策定され、全学的に留学実績のデータ整備に取り組むことが正式に決定。その一連の流れを受け、現美術学部国際交流委員長・金田勝一教授をプロジェクト・リーダーとして発足したのが本研究「京都芸大国際交流アーカイブ」である。

本研究では、卒業生に対する聞き取り調査を軸に、交換留学の経験を振り返りながら、その効果を可視化し、データとして蓄積することで、個人の経験である交換留学の効果を大学全体に還元することを主な目的としている。また同様に、本学に海外から学びに来ている留学生への聞き取り調査も行い、様々な国際交流の成果を可視化する手段の研究を重ねていく。初年度となる2021年度は、オンライン形式で、音・美二名の卒業生を招き、お話を伺うイベント「交換

留学から辿るキャリアパス」の開催と、本学へ RCA から派遣交換留学生として来日した経験を持ち、版画専攻の非常勤講師でもある「ジョニー・ミラー氏へのインタビュー」を行なった。

### 交換留学から辿るキャリアパス

本研究会企画は、本学教務学生課、学生・国際担当とキャリアデザインセンターが共同で開催したユニークな取り組みである。音・美それぞれの卒業生を大学へと招き、それぞれのお話を交互に伺うことで、交換留学当時の記憶と、現在の活動との関係を解きほぐす試みを行なった。事前に参加者を募る広報活動を行い、学生が自由に聴講できることを周知した上で、細やかに参加者が質問をすることができる機会を作ることで、講演・対談・座談会をミックスさせたスタイルで進めるのが本企画の特徴である。特に、留学を希望している現役学生に対して、積極的な質問を促し、ニッチな質問の投げかけを誘発すること、そこからそれぞれの個人的な経験を通じた回答を得る機会を作ることで、留学経験者の経験をより多様な形で還元する試みを行なっていく。本年 10 月 7 日に開催した第一回では、ゲストに作曲家の山根明季子氏（作曲専攻出身。ドイツ・ブレーメン芸術大学に留学）と、美術家の久門剛史氏（彫刻専攻出身。RCA に留学）をお招きした。それぞれの視点から、海外での経験や、留学前後の学内での思い出を話していただき、その差異や共通点を共有しながら、学生の素朴な疑問や質問があった際には、必ず二人でそれぞれが答えることで、常に可能性を複数提示する多様性に富んだ内容となった。本企画は文字起こしと、記録動画を編集した上で、文章と動画の形で後日ウェブサイト上に公開予定である。

### ジョニー・ミラー氏インタビュー

2020 年度に行なった RCA とのアーカイブ事業では、本学から派遣された卒業生に対してしか調査が行えなかった。当初予定していた京都芸大に学びに来た留学生に対してのインタビューは、本研究にて引き継ぐ方針である。第一弾のインタビューとして、2021 年度、本学に出講されている、美術家のジョニー・ミラー氏にお話しを伺った。本インタビューに関しても同様に 2021 年度中にウェブサイト上で公開予定。

今後の方針としては、新型コロナウイルス感染症の流行状況次第ではあるが、海外で暮らす卒業生への聞き取り調査や、協定校を訪ね、留学中の学生の滞在風景を取材したり、京都芸大への留学経験のある現地の人々に聞き取り調査も進める計画である。2021 年度中に、美術学部国際交流委員会では、ドイツの美術大学現地視察を予定しており、それに合わせて、ヨーロッパ各地で活動している卒業生や、元留学生への取材を予定しているが、今以って先行きは不透明である。今後の状況に合わせて、国内での調査を重点的に進めたり、オンラインでの取材活動を進めたりするなど、どのような状況でも停滞することなく研究活動を進める手段を講じていく。

芸術大学では、アーティストや音楽家としてのステップアップの機会だと捉えられがちな交換留学だが、人生というキャリアの中で留学がどういった機会となっているのか、より大きな視点で捉える研究も進めていく。そのためには、今後は必ずしも作家活動や音楽活動を続けている修了生に限らず、様々なキャリアを重ねている卒業生を招き、交換留学の経験を、人生のキャリアにおける価値という視点からより多角的に捉え研究し、その一方で、様々なデータを蓄積していくことで、派遣先や専攻が違っていても、その根底に共通している、芸術分野での交換留学や海外経験の意義についての研究も深めていく。またその研究成果を共有する手法についても創意工夫を重ね、本学における国際交流の重要性を周知する活動にも尽力していく所存である。

橋爪皓佐（芸術資源研究センター非常勤研究員）